

カムライグ語実地調査報告：カムライグ語の様々な言語使用域

小池 剛史

The report of the fieldwork of the Welsh language in Wales: various registers of Welsh

This study deals with differences in pronunciation of some Welsh words according to the various registers. Taking one of the plural endings <-au> as an example, it is demonstrated that the ending is pronounced in a less formal ‘speaking’ mode as [-a] or [-e] according to the regional origins of the speaker, whereas in a more formal ‘reading’ mode, it is pronounced as [-ai] according to the spelling. From the point of view of learning Welsh pronunciation as a foreign language, it is not totally senseless to learn this ‘archaic sounding’ spelling-based pronunciation at least at first, since it *is* used by native speakers of Welsh speakers though in an extremely formal register. Then learners can gradually acquire more ‘natural sounding’

pronunciations with different regional accents.

Welsh register, learning Welsh, plural-ending

カムライグ語の複数形語尾の一つ<-au>の、言語使用域による発音の違いを、2008年夏に中部カムリにおいて実施した実地調査に基づき、外国語としてのカムライグ語学習の観点から考察する。

カムライグ語は綴り字と音がほぼ一対一対応になっており、どの単語の発音も綴りから推測出来る。しかし、綴り字に基づいた発音と母語話者による発音が大きく乖離しているものは決して少なくない。その例の一つが複数形語尾の<-au>（例 *llyfr-llyfrau* 「本」）である。この語尾の綴り字通りの発音は[-ai]であるが、実際の発音は Thomas & Thomas (1989:40-41)によれば、カムリ北西・南東部では[-a]、北東・南西部では[-e]となる。筆者の疑問点は、学習者にとって<-au>で終わる名詞複数形を[-ai]という発音で学習することは、上述の事実を鑑みて無意味なことなのだろうか、という問題であった。それはつまり、母語話者が<-au>を[-ai]と発音することはどのような言語使用域においても皆無なのだろうか、という問題である。今研究の目的は、(1) 複数形語尾の<au>が、Thomas & Thomas の報告する[-a/-e]のような発音になるか、綴り字通りの[-ai]という発音になるかは、話し言葉の形式性の度合い、つまり言語使用域の違いによるものであることを、実地調査によって裏付け、さらに(2) カムライグ語学習における<-au>の[-ai]という発音を学習することの意義を考察することである。

まず、綴り字発音と母語話者の発音の乖離の由来について考察する。現在のカムライグ語の正書法は、John Morris-Jones を座長とした正書法作成委員会による『カムライグ語正書法』（1928年成立：*Orgraff yr Iaith Gymraeg*）にまとめられている。序文で、「正書法をまとめるに当たって二つの問題がある：(1) どのような音を「標準」と見なすかを定めること、そして(2) それら(の音)を表す最適の記号を選ぶこと、である」（*Orgraff* 1928: iii）と述べている。ここから、カムライグ語には標準的発音があると考えられていることが読み取れる。そして標準的発音をされていたのが「文章語的発音」（*‘ynganiad llenyddol’ Orgraff* ix）であった。文章語的発音とは、William Morgan や John Davies のカムライグ語訳聖書（それぞれ 1588 年、1620 年）によって確立されていた、書き言葉のカムライグ語を基本としたものであった。モルガン訳聖書に使用されたカムライグ語は、その当時すでに擬古的と感ぜられた文体で書かれていた。それが毎日曜日に教会で朗読されるに連れ、カムライグ語話者の間に「格調高

い」「品位ある」「正しい」カムライグ語というものが形成された (Davies 1999: 25)。これがカムライグ語の文章語的発音の基礎となる。現代カムライグ語の正書法は、16世紀に「擬古的」と感じられた発音に基づいた発音を反映した綴りになっており、20世紀当時の発音に基づいたものではないので、綴り字通りの発音と、現在の母語話者による発音との間に、大きな乖離があるのは当然である。しかし、前者の発音は、極度に形式的な言語使用域に限って、母語話者の発音に現れるとされる (Price 1984: 266)。

C. H. Thomas (1982: 102) によれば、形式性の高い話し言葉は、大学の講義、研究者向けの学会発表、教会での説教 (特に非国教会派)、祈祷、アイステズヴオドでの詩人の表彰などにおいて聞かれ、形式性の低い話し言葉は、ラジオ・テレビ放送、一般向けの講義、議論、大学教員と学生との会話において聞かれる、と述べている。この二つの大きな違いは、前者が「既にかかれたものを読む」というスタイルを基調としているのに対し、後者は「その場で考えた事柄を話す」というスタイルを基調としている。語の発音について言えば、綴り字通りの発音は前者の発話において聞かれ、後者の発話では、各地域によって異なる発音が聞かれる。複数形語尾に関して言えば、<-au>の発音は、「読む」スタイルの話し言葉では[-ai]と発音され、「話す」スタイルの話し言葉では、地域によって[-a][e]といった発音が聞かれるという推測が出来るのである。

この推測に基づき、2008年夏にカムリ中部において実地調査を行った。この二種類のスタイルの話し言葉を被験者から抽出するために、二種類の実験を行った。(1)「話す」スタイルの抽出：絵を見せてそれを言葉で描写してもらおう。絵には、本が数冊置かれ、花が数輪咲き、空には雲がいくつか浮かんでいるという状況が描かれ、本の複数形 (llyfrau)、花の複数形 (blodyn-blodau)、雲の複数形 (cwmwl-cymylau) を言わざるを得ない状況にした。(2)「読む」スタイルの抽出：(a) 名詞の単数形だけを載せたリストを見せる。それを見て複数形を思い出し、単数形・複数形をペアで発音してもらおう。複数形を記憶から呼び起こすという認識作業を行うため、「話す」スタイルよりも形式的な言語使用となると考えた。(b) -au で終わる複数形のリストを見せ、読んでもらう。

この実験を、中部カムリの Machynlleth, Dolgellau, Llambedr Pont Steffan, Dol-y-Bont で行った。被験者は6名であった。この実験で、6名中5名が、(2)の実験で<-au>で終わる複数形を[-ai]と発音した。彼らは(1)の実験ではほとんどの場合に[-e]または[-a]で発音していた。

この実験の結果、カムライグ語話者は複数形語尾<-au>を、「話す」ことを基調とした通常の話し言葉では Thomas & Thomas が報告するような各地域の発音 ([-a][e]) をするが、「読む」ことを基調としたより形式的な話し言葉では、

綴り字通りの[-ai]という発音が聞かれるということが分かった。

カムライグ語には『カムライグ語正書法』にまとめられているような「標準的綴り」は存在するが、「標準的発音」は存在しないと言われる (Thomas 1982: 102)。しかし、改まった調子で話したり、書かれたものを読んだりする際に母語話者が「規範」とするような発音がある。それが『正書法』で「文章語的発音」(ynganiad llenyddol) とされる発音である。少なくとも複数形語尾<-au>に関しては、日常的話し言葉の[-a][-e]に対する綴り字発音の[-ai]がそれである。この「文章語的発音」を、カムライグ語学習者が「日常的会話」の中で用いれば、当然不自然であり、「外国人」「学習者」発音と見做されるであろう。しかし、母語話者も「文章語発音」を使用しないわけではない以上、学習者が少なくとも最初は「文章語発音」「綴り字通りの発音」から学習することに意味がないわけではない。音声表記の掲載されている辞書のない状況でカムライグ語を学習する学習者にとっては、最初は綴りから分かる発音で練習し、徐々に母語話者の発音にも慣れていくという方法が有効であると考えられる。

主要参考文献

- Davies, J. (1999). *Pocket Guide: The Welsh Language*. Cardiff: University of Wales Press & Western Mail.
- Labov, William. (1972). *Sociolinguistic Patterns*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Thomas, C. H. (1982). 'Registers in Welsh', *International Journal of The Sociology of Language* 35: 87-115.
- Price, G. (1984). 'Welsh as a Literary, Standard, and Official Language', In Ball, M. J. & Jones, G. E. (eds.) *Welsh Phonology* (Cardiff: University of Wales Press), pp.262-269.
- (1942) *Orgraff yr Iaith Gymraeg*. Caerdydd: Gwasg Prifysgol Cymru.
- Thomas, Beth & Thomas, Peter Wynn. (1989) *Cymraeg, Cymrâg, Cymrêg ...: cyflwyno'r tafodeieithoedd*. Caerdydd: Gwasg Taf.